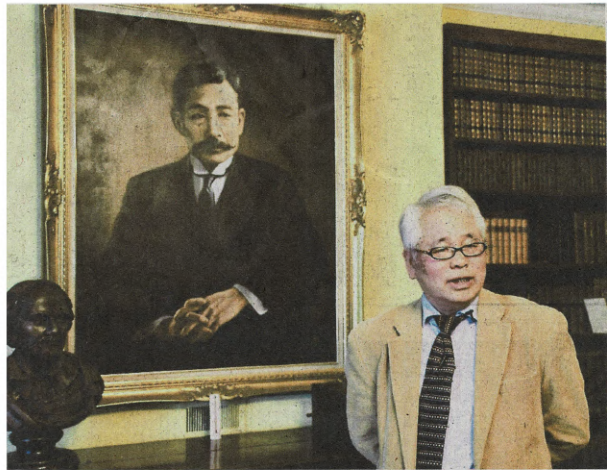


英・漱石記念館が再開

予約制 ファンらの要望で



再オープンしたロンドン漱石記念館であいさつする館長の恒松郁生さん＝8日、ロンドン郊外

【ロンドン共同】文豪、夏目漱石（1867～1916年）の英国留学に関する資料を集めた「ロンドン漱石記念館」が8日、ロンドン郊外で再びオープンした。留学で英国に滞在していた天皇陛下もかつて訪問された前身の記念館は、2016年に閉館。研究者や漱石ファンからの要望を受け、館長で元崇城大教授の恒松郁生さん（67）が再開を決めた。

恒松さんは「英国での体験が漱石の作品や人生にどんな影響を与えたか。漱石研究の糸口になることを期待している」と話している。

漱石は1900年から約2年間、国費留学生として英国に滞在。帰国後に大作家の道を歩んだ。74年に渡英した恒松さんは、漱石が購入したものと同じ書籍や、漱石の名が記された英国の国勢調査資料の写しなどを収

集。84年、漱石が長く住んだロンドンの下宿近くに記念館を開館した。

漱石の創作活動の原点を探る施設として知られ、85年には天皇陛下も訪問された。恒松さんは「漱石の海外での評価に興味を持たれていた」と当時を振り返る。好きな漱石作品を問うと「坊っちゃん」と回答されたという。ただ、来館者の減少で維持が難しくなり、漱石の没後100年を一つの区切りとして閉館した。

今回は恒松さんの自宅を改修して展示スペースを確保。漱石が観覧した芝居のプログラムなど、新たな資料も合わせて計約1万点を公開する。メールでの予約制とし、毎年3～8月の週3回に限り開館。当面は無料とし、その後有料とする予定だ。問い合わせは sosekimuseum@googlemail.com